

日野川の源流と流域を守る会

会報

# しのがわ

第48号



**金賞** 日野川フォトコンテスト2025 一般部門  
題名：静かなる夜の川  
撮影者：村川 節秀  
撮影地：江府町佐川

＜撮影者の一言＞

4月の日野川と天の川を撮りたくて、夜明け前の3時に目的の撮影が出来ました。

## ＝ 目 次 ＝

- 令和8年総会開催報告 ..... 2
- 日野川フォトコンテスト2025入賞作品紹介 ..... 3
- 日野川フォトコンテスト2026作品募集／イベント参加紹介 ..... 4
- 森と水に親しむ補助金活用団体の活動報告 ..... 5
- 令和8年イベント案内／会員募集 ..... 6

# 令和8年 総会開催報告

今年の総会を開催し、事業計画、予算について原案どおり承認されました。  
引き続き、活動に御理解、御協力をいただきますよう、よろしくお願いいたします。

日時：令和8年2月25日(水) 14:00～16:30

場所：米子市文化ホール イベントホール

○議事 令和7年事業報告、同決算及び監査報告  
令和8年事業計画及び収支予算

○日野川フォトコンテスト2025入賞者表彰式（入賞作品を表紙、3ページに掲載しています。）

## 一 松村会長挨拶

【要旨】令和7年度の活動を通じ、一度損なわれた自然環境を再生することの難しさを痛感。令和8年度は次世代への「ふるさと教育」を加速させるため、体験型プログラムを従来の2倍に増やし、流域の魅力を伝えてまいります。



### ◆水生昆虫の観察場所変更から学んだ「自然の摂理」

令和7年の事業を通じて色々考えることがございました。一つは、子どもたちが大変楽しみにしております「水生昆虫の観察会」の実施場所についてです。当初は法勝寺川の「水辺の楽校」での開催を検討しておりましたが、事前に先生方に現場を確認いただいたところ、水生昆虫が十分に根付いていないことが分かり、従来の日野町での実施に変更いたしました。

ここで痛感したのは、一度自然環境に手を入れてしまうと、元に戻るまでには多大な時間を要するという事です。自然に恵まれた鳥取県西部に暮らす我々として、日野川の保全には決して気を緩めてはいけなと改めて考えた次第です。

### ◆令和8年度は体験型プログラムを「年2回」へ

令和8年度の事業計画では、子どもたちが心待ちにしている体験型プログラムを、従来の年1回から2回へと増やす提案をさせていただきます。少しでも多くのお子さんに日野川の自然に触れていただき、今育っているこの場所がいかに恵まれた環境であるかを知ってもらいたいという思いからです。

### ◆「ふるさと教育」で地域の未来を創る

少子化が進む中で、自分たちの育つ地域を正しく理解することは、将来の職業選択において地元を思い出すきっかけになります。これこそが真の意味での「ふるさと教育」だと考えます。会員の皆様には多大なるご協力をいただいておりますが、令和8年度につきましても、引き続きご支援を心よりお願い申し上げます。

### 令和7年収支決算

(単位:円)

収入	2,624,359
支出	1,262,891
残額	1,361,468

※残額は翌年度に繰越

### 役員の変更

監事の白石 佑治 江府町長に代わり、近藤 宏 日野町長に就任いただきました。他の役員については、再任をいただきました。

### 令和8年収支予算

(単位:円)

区分	前年予算額	本年予算額	増減
繰越金	1,023,781	1,361,468	337,687
会費	881,000	940,000	59,000
補助金	1,000,000	800,000	▲200,000
その他	100	100	0
計	2,904,881	3,101,568	196,687

### 【支出】

(単位:円)

区分	前年予算額	本年予算額	増減
会議費	60,000	60,000	0
事業費	1,000,000	926,000	▲74,000
広報費	240,000	244,000	4,000
助成金	450,000	450,000	0
事務費	180,000	180,000	0
予備費	974,881	1,241,568	266,687
計	2,904,881	3,101,568	196,687

### ◆講師紹介：自然の楽しみ方を伝えるスペシャリスト

山本講師は、緑豊かな自然の中を歩いて樹木を学んだり、収穫した葉っぱやキノコを料理して食べたりといった、誰もが気軽に参加できるプログラムを年間通じて提供されています。

### ◆講演内容：日野川～山・川・海の連環～

今回の講演では、山・川・海が密接に繋がっていることについてご解説いただきました。「たたら製鉄」で生じた砂が日野川に流れ、弓ヶ浜半島を形成した歴史的背景をはじめ、山の持続的利用の大切さ、生物多様性を考えた植生回復、そして私たちが自然から受ける恩恵（生態系サービス）の活用など、多角的な視点でお話いただきました。



講師 山本 福壽氏  
(智頭の山人塾 塾長)

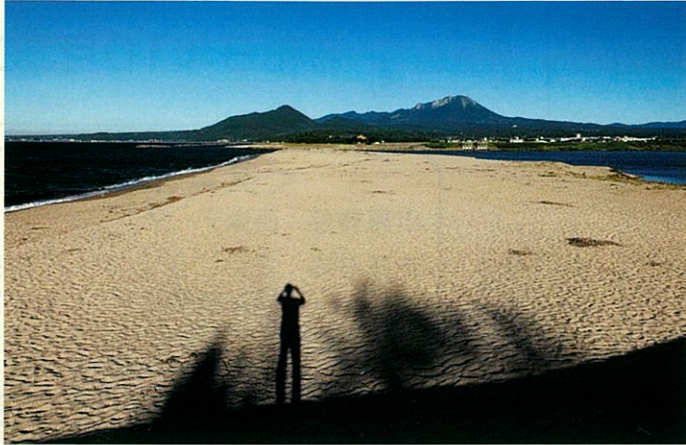
# 日野川フォトコンテスト2025入賞作品介绍

日野川の素晴らしさを広く伝え、恵まれた環境を次の世代に引き継いでいくため、流域の自然、山、森、里山の風景、生活文化などを対象とした写真作品のコンテストを行いました。

多くの応募作品の中から選ばれた一般部門、スマホ部門、それぞれの入賞作品を御紹介します。

## スマホ部門

※一般部門の金賞は表紙に掲載しています。



「夏の日の境界線」 山内 秀将

### 撮影者のひとこと

日野川の河口に立つと長い時間をかけて作り出された川と海との境界線が見えました。そこには同時に空と大地の境界線、西日が作り出す光と影の境界線も映し出されました。夏の日の夕暮れ、自然とスマホに手が伸びた瞬間でした。

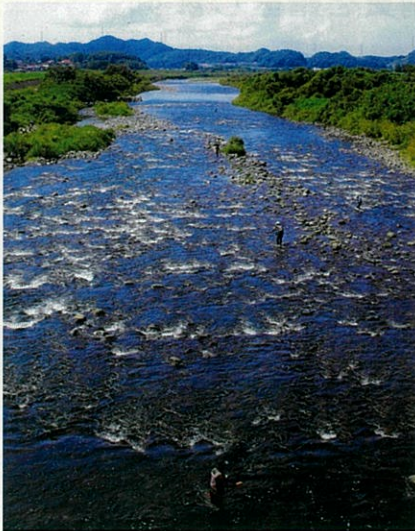
## 一般部門



「大いなる日野川」

銀賞

田中 正義



### 撮影者のひとこと

日野川に係る生活模様が撮れたらと思っていました。川の大いなる役目は数限り無くありますが、趣味の場、憩いの場としても貢献しています。そんな模様を撮りました。

## スマホ部門



「萌黄色の里山に行く」

銀賞

崎村 公亮



### 撮影者のひとこと

この日は田に水を張り終えたところで、水面に映った列車と背景の新緑の木々、雲一つない青空が初夏の訪れを感じさせてくれました。農家さんは忙しい時期でしょうが、実り豊かな秋になればいいな、と思いながらシャッターを押しました。

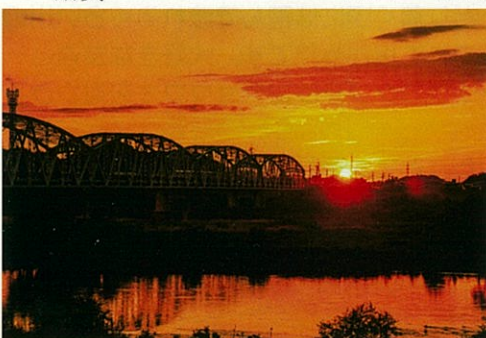
## 一般部門



「大切な風景」

銅賞

村川 香織



### 撮影者のひとこと

小さい頃から大好きな日野川と日野橋。いつまでも私の心を癒してくれる大切な存在です。

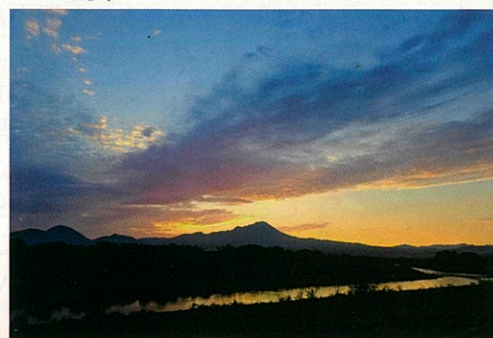
## スマホ部門



「絶景のプロローグ」

銅賞

上山 二郎



### 撮影者のひとこと

ダイヤモンド大山を待つ日野川。朝焼けを映した赤く染まった川。ダブルダイヤモンド大山を待つ瞬間。

# 日野川フォトコンテスト2026 作品募集

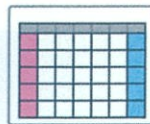


今年度は“未来へ繋ぐ日野川”をテーマとし、日野川と日野川を取り巻く四季折々の美しい自然景観、流域に息づく人々の暮らしや伝統文化など、日野川の魅力を伝える写真を一般とスマホ、2つの部門で募集しています。



## 撮影対象

日野川の豊かな自然の中で、子どもたちが生き生きと遊ぶ姿や、家族・仲間が川に親しむ姿など、人と日野川の関わりが伝わる風景 ※1人につき1部門1点の応募とします。



## 応募締切

令和8年10月30日(金)

### <一般部門>

応募作品：四つ切またはA4サイズの写真 or 画像データ  
 応募方法：「とっとり電子申請サービス」で必要項目を入力し画像データを添付し送信。もしくは写真と必要項目を明記した作品募集チラシの裏面の応募用紙を郵送または持参。

応募はコチラ



### <スマホ部門>

応募作品：画像データ  
 応募方法：左の二次元コードを読み取り、リンク先の「とっとり電子申請サービス」で必要項目を入力し画像データを添付し送信

必要項目

- ①作品タイトル (10字程度)
- ②作品への思い (70字程度)
- ③撮影年月
- ④撮影場所
- ⑤撮影者氏名
- ⑥住所
- ⑦連絡先
- ⑧応募部門(一般 or スマホ)

各部門それぞれに**金賞**、**銀賞**、**銅賞**を選出し、賞状と副賞を贈呈します。

## イベントに参加して

中学1年生 吉川蓮都

【事務局より】「日野川の源流と流域を守る会」では、次世代を担う子どもたちに、活動を通じて感じたことや発見したことを自分の言葉で伝えてもらうことを大切にしています。今回、イベントに参加した小学生(当時)に自然の中での驚きや喜びを綴ってもらいました。子どもたちの瑞々しい感性から、日野川の魅力と未来への希望を感じていただければと思います。

### ◆日野川の希少生物を守る活動に参加して

日野川の希少生物を守る活動に参加しました。僕は人工巣穴の掃除をする班で作業しました。巣穴の中に溜まった泥を外に出す作業でしたが、たくさん泥が溜まっていたなかなか大変でした。川から巣穴へ腕を突っ込んで泥をかき出す作業もしました。人工巣穴の中に入って作業に参加できるのは、米子市の小学生で僕だけかもしれないと思うと、とても嬉しかったです。

溜まった泥が全部抜けて、川とつながった時はやったー！と思いました。午後の観察会の後半で、ライフジャケットを着用したままながされる遊びをしてとても嬉しかったです。



希少生物を守る体験活動

### ◆日野川源流探訪のワクワク体験

日野川源流探訪にも参加しました。日野川の源流ってどんなところだろう？とわくわくしながら山の中を歩きました。川の中を長靴でジャブジャブと歩いたり、崖のようになった場所の川を渡ったり、ロープを掴んで登るところもあってスリルがあってとても面白かったです。源流にたどり着く頃には飛んで渡れるくらい川の幅が狭くなっていました。源流まで行くことができ良かったです。大好きな友達と一緒に参加したので、とても嬉しかったです。チュウゴクブチサンショウウオを見つけることができたのが最高の思い出になりました。



源流探訪

そのほかにもたくさんの観察会に参加しました。とても楽しかったし、たくさん学ぶことができとても素晴らしい時間を過ごすことができました。

家族だけでは出来ないことを体験するチャンスになりました。違う小学校の友達もできました。もっとたくさんの小学生の皆さんに体験して、楽しんでもらいたいと思っています。

# 森と水に親しむ活動の報告 (令和7年)

将来を担う子どもたちや流域住民の方々に体験活動を通して、日野川流域の森や水辺の自然環境、歴史文化などに対する理解を深めてもらうため、森や水に親しみ学ぶ活動をされている2団体の取組を支援しました。

## 【一般社団法人 とまりぎ】

～日南町子ども道場事業～ (8月19日)



川遊びの様子

### ◆子ども道場 ～里山体験で育む自立心と異世代交流

一般社団法人とまりぎは「地域の価値を次世代に手渡す」コンセプトをもち、令和6年4月11日に発足しました。日南町霞のかつての大庄屋本久代邸を拠点に子ども達の原体験につながる異世代交流と価値ある体験活動の場の提供を行っています。

結成した初年度より子どもの達成感や自立心をはぐくむ体験活動の提供を目的として、小学生5.6年生を対象に2泊3日の「子ども道場」を開催しています。今年度は、地元を含め1府3県の子ども達から申し込みがありました。また、鳥取大学と新見公立大の学生ボランティア生10名に加わってもらい、スタッフの数はのべ50人となり活動を見守りました。ご飯づくり、草木染め、テント泊体験、川あそび、アマピーやトマトを現地に行って収穫しピザをつくって食べるなど里山のくらしを体験する内容を取り入れました。

### ◆日野川での安全な川遊び体験 ～「川は危ない」から「正しく知る」へ

また、2日目には日南町霞地区の日野川で実施しました。昭和40年頃、日野川は夏になると川で魚釣りや鮎かけ、投網、ヤスで魚をついて楽しむ姿がたくさんありました。川は、異年齢の子どもが一緒になって堰から川に飛び込んだり泳いだり、子どもの賑やかな声が飛び交う場所でした。しかし、いまや、川の事故が各地で発生し、鮎かけの楽しさ以外には「川は危ない」場として、ふれあう機会がほとんどなくなりました。

私たちスタッフは、水の災害が起こる今だからこそ川遊びの専門家をお呼びして、水の楽しさや怖さを正しく知り、大人が見守る中での川遊びを実施することにしました。川の様子は、護岸工事や大水の影響により、当時とは変わっていました。しかし、事前調査の時、専門家の先生は「ゴミが一つも落ちていない」と驚かれ、護岸には小さいメダカが泳ぎ、川の水音がやさしくそよぐ心地よい空間でした。事前に草刈りを何度も行い、当日は川の周辺や水中に大人の見守りを配置し、着衣水泳、ペットボトル1本で水に浮く練習の後、タイヤチューブで川下りを行いました。心地よい川の流れに身を任せ、子どもだけでなく大人のスタッフも水遊びに興じました。



記念撮影

## 【日野町 やっちら会】

～大滝フェスタ ミニコンサート開催～ (11月8日)

### ◆地域のお宝を守り伝えるルート整備 ～幻の「大滝」を再発見

「やっちら会」は、集落内外の有志によって、個々の発意を第一義に、楽しみながら地域づくりに取り組む集まりです。集落の裏山を「安らぎの森」と命名し、ヒメボタル観察会やその他の動植物の自然観察会などを開催。令和7年には4～5月にかけて「筍ホリデー」を実施。地域内外から参加者を募ってタケノコ堀りを楽しんでいただくと同時に、竹林の拡大を防止する取り組みを行い、大人気でした。

そうした身近な裏山に、落差20mはあろうかという四段の滝を「見つけた」のは令和6年春のこと。この一帯は昔から「大滝山」と呼んでいて、この滝の存在を知る者は当然あったでしょうが、それを知らない私たちは、「あるらしい」という話を確かめに、折り重なる倒木を跨ぎ、藪漕ぎをし、迂回しながら初めて滝の下に辿り着き、その見事さに驚きました。集落を流れる日野川の支流、通称「ろくだ川」のまさにここは源流。これは我々の「お宝」になるものと確信しました。

同年6月、まずはなんとか簡単にアプローチできるようにと集落外からもサポーターを募り、行く手を阻む倒木などを始末しました。



ミニコンサート



自然解説セッション

### ◆「大滝フェスタ」開催 ～マイナスイオンと音楽に包まれる至福のひととき

そうして大滝が身近になるともっと多くの人に知ってほしい、訪ねてほしいと言うメンバーの思いが高まり、「大滝フェスタ」を立案。今後の活動にもつながるように、やっと通れるルートを整備することとし、事業者の力も借りて数日をかけて歩行路は見違えるように。周辺も片付け、特設ステージもメンバーで設置しました。

いよいよ当日、ご高齢の方も少し身体が不自由な方にもお越しいただくことができ、参加者とスタッフで約50人。ステージの最初は安原の自然解説セッション。次に、参加者の中で一番高齢の方と幼児にお願いしてモミジの記念植樹。最後に長尾光貴さんとグループによるオカリナ演奏～地元のコーラスグループ「アザレア」による演奏をしていただきました。滝の水音を聞き、マイナスイオンを浴びながら楽しむ心地よい音楽。次は尺八や二胡の演奏を楽しんでもらえたらなどと密かに思っています。

**日野川流域の森と水に親しむ活動を支援します【申請期限】令和8年6月30日(火)**

支援を希望される団体等は、申請期限までに実施要領を確認の上、申請書に活動計画書を添えて提出してください。詳しくはホームページ、チラシをご確認ください。



# 令和8年 年間イベント案内

日野川とその流域の魅力にふれてみませんか。\*お問合せは事務局まで

## 日野川支流の魅力発見ツアー 済

【期 日】 令和8年5月24日(日)  
【場 所】 江府町鏡ヶ成

## 日野川の希少生物を守る!みんなの日野川学校②

【期 日】 令和8年7月18日(土)  
【場 所】 日南町多里、生山

## 日野川の大きさ体感! ~河口から源流まで~

【期 日】 令和8年6月27日(土)  
【場 所】 日吉津村~日南町新屋周辺

## 木に親しみ森を守る! ~森林整備・工作体験~

【期 日】 令和8年9月5日(土)  
【場 所】 日野町周辺

## 学ぼう!遊ぼう!みんなの日野川学校①

【期 日】 令和8年7月12日(日)  
【場 所】 日野町下菅

『日野川の源流と流域を守る会』の活動は、県民の参画と協働による森づくりを推進する『豊かな森づくり協働税』を活用しています。



## 日野川の源流と流域を守る会

# 会員 募集中!

当会の活動は会員の皆さんに  
支えられています。

「日野川を日本一美しい川」にするため、皆で日野川の源流と流域を守る会の活動に参加しませんか?

当会の活動に興味をお持ちの方は、入会手続きや会費などについて、事務局までお気軽にご相談ください。

【お問い合わせ先】

・Eメール hino-shinkou@pref.tottori.lg.jp

・ファクシミリ (0859) 72-2072

常時受付・内容確認後に返答させていただきます。

・電話 (0859) 72-2081

月~金曜日 9:00~17:00 (年末年始、祝日等除く)

入会案内  
(会のホームページ)



## 日野川流域憲章

### 【前文】

私たちは悠久の時の流れの中で、多くの恵みをもたらしてくれた日野川、その流域のすばらしい自然・環境を守り、日野川の清流化に向けて活動します。

日野川はたくさんの動植物の生命を育み、たくさんの人たちの生活も支えてくれています。

また、日野川流域には伝統ある生活文化・芸術が育まれています。

私たちは日野川の歴史・自然を学び、よく理解して、より豊かできれいな日野川の流れを後世に残すために、みんなで力をあわせて活動します。

そのために、ここに「日野川流域憲章」をつくり、多くの人たちの参加・協力をよびかけます。

### 【日野川流域憲章の理念】

- ・日野川流域の自然・環境を守り、川と私たちとのすばらしい共存に努めます。
- ・日野川のきれいで豊かな流れが、いつまでも続くように美しい緑の森を守り、育てるように努めます。
- ・日野川流域の交流・連携をすすめます。
- ・日野川流域の歴史・生活文化を学び、その知識を次世代に引き継ぐように努めます。
- ・日野川流域に培われてきた、さまざまな価値ある魅力を大切にして、継続的な地域の発展に努めます。
- ・日野川流域を愛する人たちの輪が広がるように努めます。

平成20年8月23日

日野川流域憲章制定実行委員会

